

日本国際情報学会主催「第7回安全保障セミナー」実施報告

令和4年6月25日（土）、広島大学法学部長永山博之教授を講師として招聘し、本学会安全保障研究部会長佐々木からの発表と併せ、第7回安全保障セミナー（オンラインセミナー）を実施したので報告いたします。

コロナ禍のおり、実施要領については最後まで対面でのセミナー実施を追求してきましたが、やむなくオンラインでの開催との判断に至りました。オンライン開催ということで、遠方に所在する方も容易に参加できるという長所があり、国内では講師も広島大学から招聘することが可能で、また、留学生の参加も得られ、より多くの研究者に参加の機会を作為できたのではないかと思います。

テーマは、昨今のロシア・ウクライナ戦争の情勢を踏まえ、その主たるプレイヤーのロシアに加え、今次戦争を横目で見つつ戦訓を注意深く分析しているであろう中国に視点をあて、「中国・ロシアの安全保障」と設定し、第7回の「安全保障セミナー」を企画いたしました。実施方法は、Zoomによるオンライン方式のセミナーとして実施しました。登録は50名ほど、実参加は30名ほどで実施することができ、所望の目的は達成できたものと考えます。

日本国際情報学会
第7回安全保障セミナー
(Zoomによるオンラインセミナー)

日時: 令和4年6月25日(土)
15時00分～18時00分
テーマ: 中国・ロシアの安全保障

第1部 広島大学法学部長
永山博之 教授
(題目: 中国における党軍関係
—比較社会主義的検討)

第2部 本学会安全保障研究部会長
佐々木孝博(広島大学・東海大学客員教授)
(題目: ロシア・ウクライナ戦争
における情報戦)

参加費：無料
【申し込みは、下記の登録HPから①お名前、②ご所属、③ご連絡先(メールアドレス)をご連絡ください。登録後実施の週にZoomアドレスを送付致します。】
<http://gscs.jp/event/20220625.html> (登録HP)

1 実施日時

令和4年6月25日（土）15：00～18：20

2 実施方法

Zoom 使用によるオンラインセミナー

3 講 師

第1部

広島大学法学部長 永山博之 教授

演題：「中国における党軍関係—比較社会主義的検討」
講師略歴：1986年慶応義塾大学法学部卒業、1988年同大学院法学研究科政治学専攻修士課程修了、1991年、同大学大学院法学研究科政治学専攻博士課程単位取得退学。慶応義塾大学助手、広島大学法学部助教授（准教授）、同教授を経て、2021年4月同大学法学部長に就任、現在に至る。専門は国際政治学、安全保障論。



第2部

本学会安全保障研究部会長 佐々木孝博

演題：「ロシア・ウクライナ戦争における情報戦」
講師略歴：1986年防衛大学校（電気工学）卒業後、海上自衛隊に入隊。その後、米海軍第3艦隊連絡官、オーストラリア海軍幕僚大学留学、在ロシア防衛駐在官、第8護衛隊司令、統合幕僚監部サイバー企画調整官、下関基地隊司令などを経て、2018年防衛省退職（海将補）。2010年日本大学大学院総合社会情報研究科修士課程修了。専門は、ロシア軍事・安全保障論、情報戦、サイバーセキュリティ論、インテリジェンス問題。



4 実施の概要

- 15：00～15：05 開会挨拶（日本国際情報学会会長 近藤大博）
- 15：05～16：05 講 話
- 16：05～16：25 質疑応答
- 16：25～16：35 休 憩
- 16：35～17：35 講 話
- 17：35～18：15 質疑応答
- 18：15～18：20 閉会挨拶（日本国際情報学会会長 近藤大博）

5 成果・所見

産官学の専門家等、約50名の参加登録（約30名の実参加）を得て、第7回の安全保障セミナーを実施することができました。今回のセミナーは、コロナ禍のおり、対面形式でのセミナーの実施は断念し、オンライン形式により実施しました。オンライン形式であったため、講師の側からすると、聴講者の反応を伺うことができず、講話に対する理解の度合いを判別することができないなど、やり抜くさというものを感じざるを得なかった感はありました。しかしながら、実際に会場に赴く必要がないオンライン形式では、国内外を問わず遠方からの参加も容易であり、期待以上の参加者を得ることができました。そのような見地からすると、広く学会活動を認知していただくとの目的は達したものと考えます。

今後につきましても、対面形式・オンライン形式を融合したハイブリッド的なセミナーを実施できれば、双方の長所を生かし、短所を補うことができるものと考えます。

講話第1部においては、中国の政治・軍関係を中国共産党の成り立ちから軍との関係に至るまで詳細に分析した発表が行われました。質疑応答においては、モンゴルの留学生からは隣接国の立場からみた中国観という見地から、非常に興味深い質問がなされ議論も白熱いたしました。また、中国における軍改革の状況、陸・海・空・戦略ロケット部隊などの軍種を如何に統合運用しようとしているのかの質問もなされ、中国人民解放軍が抱えている課題についても理解することができました。

講話第2部では、現在進捗中のロシア・ウクライナ戦争における情報戦・サイバー戦について現段階における評価についても発表が行われました。2014年のクリミア併合時と同様に情報空間やサイバー空間を活用しあらゆる手段やあらゆる領域でもって戦いを挑んでいるロシアが、どうもうまくいっていない。その要因についての分析がなされました。質疑応答においては、今後課題になるであろうナラティブ領域の戦い（事実を積み重ねてナラティブを作り上げ理論武装をする情報戦）に挑んでいるロシアに対し、どのような対処法があるのか議論になりました。議論が白熱し、終了予定時間を大幅にオーバーするような有益なセミナーとなりました。

最後になりますが、本セミナーの実施に関しまして尽力いただきました、準備委員各位及びオンラインの実施に関しまして多大なご支援を頂きました株式会社ソフト技研様に深く感謝を申し上げます。

(安全保障研究部会長：佐々木記)